BRITISH BRASS
Since 1979

Senzoku Gakuen College of Music
British Brass

55th
Regular Concert

2022/11/06
14:30 start (14:00 open)

【主催】 洗足学園音楽大学・大学院

BRITISH BRASS
Since 1979

新型コロナウィルス感染症の
感染拡大を防ぐためのお願い

・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
・大声や対面での会話はお控えください。
・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

BRITISH BRASS
Since 1979

Greeting

本日は、洗足学園音楽大学ブリティッシュブラス第55回定期演奏会にご来場くださいまして、誠にありがとうございます。

ブラスバンドの原型ともいえる金管合奏という形態は17世紀から18世紀にかけて教会音楽の中で流行し、その後、ヨーロッパの軍楽隊の影響を受けながら次第に様々な形で発展してきました。その中の一つの形であるブラスバンドは、1884年にパリで始まりました。当初は同属楽器サクソルンの発明者であるアドルフ・サックス（Antoine Joseph Adolphe Sax, 1814- 1894）の自作の楽器を中心とした合奏団で「サクソルンバンド」と名付けられていましたが、発展の過程として、音色にコントラストを付ける為に直管楽器のトロンボーンが加えられ、現在のブラスバンドのような形となりました。

イギリスでは当初、ブラスバンドは救世軍などが街角などで募金を募るために演奏していた小規模な金管アンサンブルのバンドに過ぎませんでした。しかし19世紀半ばを過ぎ、炭鉱企業の福利厚生の一環として金管楽器が取り入れられるようになり、炭鉱労働者の息抜きや安らぎの為に結成された金管バンドが各地に普及し、イギリスの多くの会社などで採用されるようになってきました。そして、1853年に ブラスバンドのコンクールが行われるようになり、産業革命の活況と相まって、企業のみならず各地でたくさんのブラスバンドが 誕生し、現在では、町に一つはブラスバンドが必ずある、と言えるくらい地域に密着した存在となっています。（このエピソードは 映画「ブラス!」（Brassed Off！）でも取り上げられています。）

洗足学園音楽大学では、早くからこのブラスバンドに着目し、1979年よりアンサンブル授業という形態で研究を重ねてきました。現在では、140名を超える学生がこの授業を履修し学んでいることを担当責任者として大変嬉しく思っています。

ブラスバンドは「家族」のように温かく、また「動くオルガン」と称されるほど重厚かつきらびやかなサウンドを奏でることができます。世界的な感染状況がまだまだ落ち着かない中ですが、今日のひととき、学生たちの素晴らしいパフォーマンスをお楽しみいただければ幸いです。また、ブリティッシュサウンドを継承する43期生となる4年生たちはこの演奏会が学生生活最後の演奏となります。是非とも盛大な拍手で迎えていただければ企画運営責任者としてこの上ない喜びです。皆様の本日のご来場を心より感謝申し上げます。

ブリティッシュブラス 企画運営責任者
福田 昌範

Programme & Members

【第1部　基本編成】指揮　福田 昌範

B.スマイリー、M.ガースメール ＆ B.ファーレル／**シャイン ダウン**
Billy Smiley, Mark Gersmehl & Bob Farrell // Shine Down

B.アッペルモント／**ブリュッセル レクエイム**
Bert Appermont (b.1973) // A Brussels Requiem

Members

Principal Cornet	髙木 美雨		
Solo Cornet	磯野 沙弥香	宮澤 恵美	及川 優羽
	山口 華奈子		
Soprano Cornet	大津 泰		
Repiano Cornet	森本 優生		
2nd Cornet	錦古里 愛	服部 沙良	
3rd Cornet	竹内 大輝	菊地 伶海	
Flugelhorn	吉井 絵理果		
Solo Tenor Horn	檜山 沙南		
1st Tenor Horn	大島 香那		
2nd Tenor Horn	芦川 大樹		
1st Baritone	上柳 創大		
2nd Baritone	荒木 優奈		
1st Trombone	長坪 海斗		
2nd Trombone	三浦 健		
Bass Trombone	神野 葵		
Principal Euphonium	石倉 雄太		
Euphonium	清水 榛菜		
E♭ Bass	渡部 陽菜	吉田 怜生	
B♭ Bass	齊藤 徹也	澤田 翔也	
Percussion	大塚 愛美	丹 健汰郎	栃下 紗奈
	眞塩 怜央奈	川﨑 友仁	鏑木 舜裕
	千保木 楽斗	松田 有平	

【第2部　中編成A】指揮　山本 武雄

M.アーノルド／パドストウの救命ボート
Malcolm Arnold (1921-2006) // The Padstow Lifeboat

L.ヴォーン・ウィリアムズ／序曲「ヘンリー五世」
Ralph Vaughan Williams (1872-1958)// Overture “Henry the Fifth”

G.ヴィンター／ジェームズ・クック サーカム ナビゲーター
Gilbert Vinter (1909-1969) // James Cook - Circumnavigator

Members

Principal Cornet	藤原 くるみ		
Solo Cornet	稲田 菜摘	江浦 蓉蓉	清田 彩華
	溝口 大輔	福山 桃花	
Soprano Cornet	友野 楓	正木 航	
Repiano Cornet	佐々木 右京	小松 美羽	吉田 伎良
2nd Cornet	池谷 彰恩	鈴木 洸太	浦島 柚子
3rd Cornet	渡辺 寛子	神山 柾紀	太田 和生
Flugelhorn	手塚 柚季	齊木 龍玖	
Solo Tenor Horn	淺田 万結	鹿野 円香	
1st Tenor Horn	石野 奈々	森下 善陽	
2nd Tenor Horn	深美 朱莉	武田 倖奈	
1st Baritone	大島 成実	外川 真結子	
2nd Baritone	関口 嬉架		
1st Trombone	小森 豊生	神野 日向	平野 結梨香
	佐藤 頼星	望月 愛永	
2nd Trombone	小野 航	加茂 伸一	本間 千尋
	永吉 彩花	中田 夏葵	湯原 芽生
Bass Trombone	林 剛潤	宮川 蒼汰	
Principal Euphonium	市村 結衣		
1st Euphonium	植木 未智		
2nd Euphonium	佐々野 広雅		
E♭ Bass	豊田 真悠子	遠藤 愛奈	佐藤 凪紗
B♭ Bass	鈴木 颯	櫻井 希有	西谷 太一
Percussion	金正 紗也加	田代 万莉子	小川 友李江
	宗像 桃子	石井 梨菜	岡崎 颯太
	田中 遥己		

【第3部　中編成B】指揮　山本 武雄

J.ウィリアムズ／リバティ ファンファーレ
John Williams (b.1932) // Liberty Fanfare

J.ウィリアムズ／映画「プライベート・ライアン」より『戦没者への讃歌』
John Williams // Hymn to the Fallen from “Saving Private Ryan”

J.ウィリアムズ／映画「スター・ウォーズ」より ファントム・メナス組曲
John Williams // “Star Wars” A Phantom Menace Suite

Members

Principal Cornet	五月女 啓太		
Solo Cornet	野村 日菜乃	石井 華音	LIN GUANGLUE
	依田 彩貴子		
Soprano Cornet	細谷 侑生		
Repiano Cornet	冨永 倫	松尾 知樹	鳥潟 涼花
2nd Cornet	谷口 諒	樋口 萌々花	堀野 大典
3rd Cornet	秋山 凜音	森本 璃音	清水 愛和
Flugelhorn	藤田 雄大	細井 咲良	
Solo Tenor Horn	鈴木 こころ	松澤 優羽	
1st Tenor Horn	芦名 まりい	平野 光沙	
2nd Tenor Horn	堀江 風雅		
1st Baritone	阿部 紗佳	山崎 尊子	
2nd Baritone	金山 美月		
1st Trombone	中津 愛梨	山下 里奈	CHI YAN-JEN
	東野 健志	原田 桃	
2nd Trombone	横山 美里	裏木 りりあ	遠藤 愛
	伴 芽衣菜	田中 朱音	小松﨑 東空
Bass Trombone	林 剛潤	宮川 蒼汰	
Principal Euphonium	加藤 千聖		
2nd Euphonium	増野 玲音		
E♭ Bass	寺﨑 栞	金子 優也	丸山 結希帆
B♭ Bass	吉海 風龍	髙島 佳樹	峯永 岳志
Percussion	八木 優弥	横木 秀真	熊谷 彩夏
	椎名 萌	相川 拓音	竹内 夏美
	吉田 創		
Keyboard	茂山 瑶*		

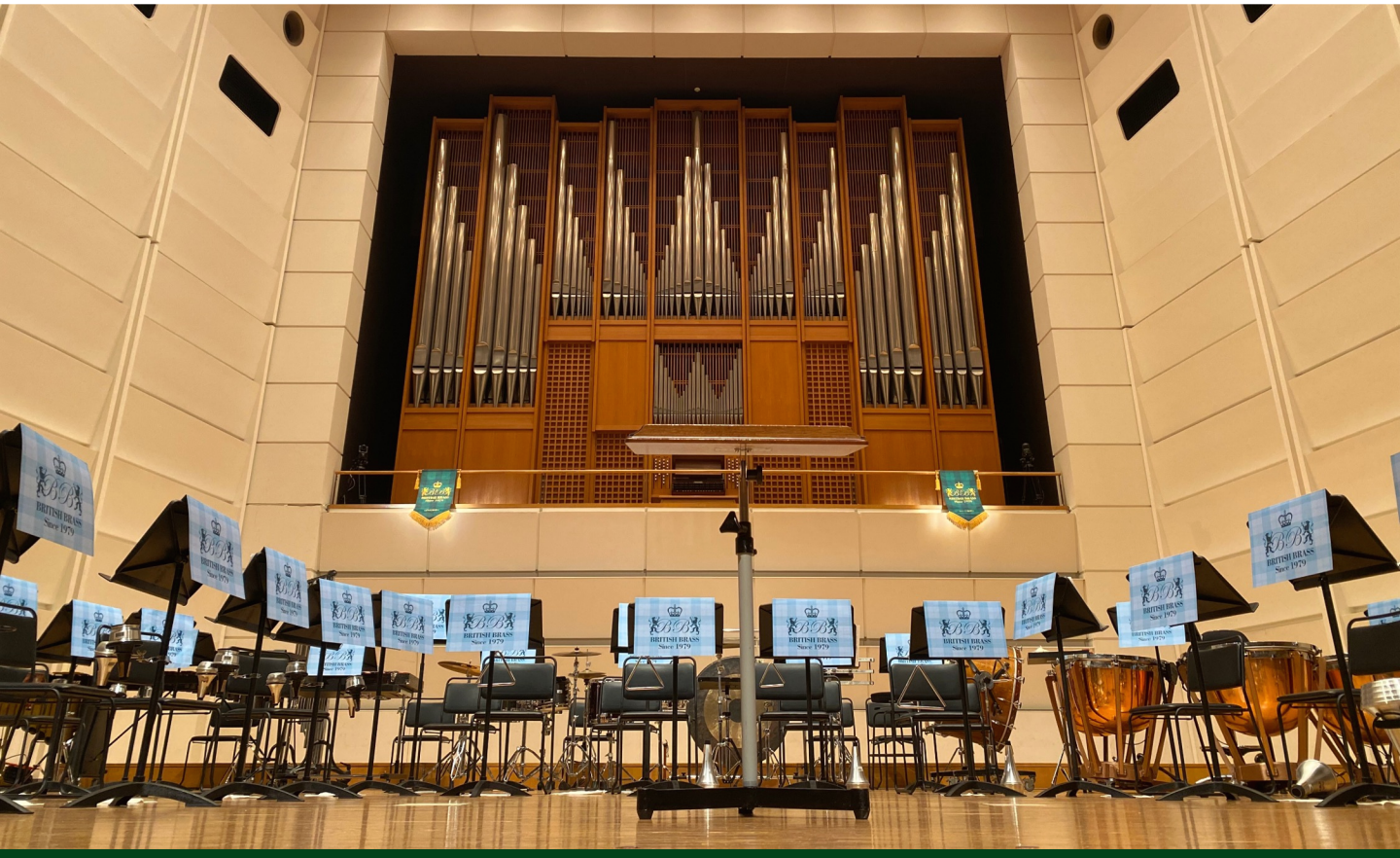
*…演奏補助要員

Programme Notes

B.スマイリー、M.ガースメール＆B.ファーレル／シャイン ダウン

この曲はビリー・スマイリー、マーク・ガースメール、ボブ・ファーレルの3名によって作曲された。1984年に発売されたアメリカのゴスペル歌手、サンディ・パティ（b.1956）のアルバム「Songs from the Heart」に収録されている。彼女は1979年から歌手活動を始め、GMAダブ賞（ゴスペル歌手の優れた功績を讃える賞）や、現在までに5回グラミー賞を受賞した。その後も多くのアーティストによってこの曲はカバーされている。歌詞の内容は「闇を散らしてください、私たちに光を与えてください」という祈りの歌である。今回演奏するブラスバンド版は、救世軍（社会福祉・教育・医療支援を行いながら、伝道事業を行っているイギリスで生まれたキリスト教の団体）インターナショナル・スタッフ・バンドのスティーブン・コブの依頼により、アンドリュー・ブライスによって編曲された。ブライスも救世軍の士官であり、デジタル音楽を活用して新しいスタイルを活性化させようと試みた音楽家の1人である。ブラスバンド版では金管楽器特有の華やかなテーマから始まる。中間部分で落ち着くが、最後は輝かしく祈りを誓うように終わる。

コルネット　4年　髙木 美雨



Programme Notes

B.アッペルモント／ブリュッセル レクイエム

ベルト・アッペルモント(b.1973)はベルギーのビルゼに生まれる。ルーヴェンのレマンス音楽院で2つの音楽修士号を取得。専攻は音楽教育とウィンド・バンド指揮法。その後"映画とテレビのための音楽デザイン"の修士号を取得するためにイギリスに留学。帰国後は中等学校で音楽の教鞭を取る傍ら、国内外の吹奏楽団、管弦楽団等から客演指揮者として多数招かれる。吹奏楽のジャンルでは「ノアの箱舟」「ガリバー旅行記」等と立て続けにヒット作品を生み出した。2008年12月には初来日し東京佼成ウィンドオーケストラを指揮し、自作自演のCD「エグモント」を収録。日欧同時発売されたこのCDは「レコード芸術誌」の準特選盤に選ばれる等国内外で高い評価を得た。現在はBBCのドキュメンタリー番組の為に管弦楽団の曲を手掛けるなどベルギーにおいて最も注目度の高い作曲家の1人である。

この曲はオーストリアのブラスバンド・オーバーエスタライヒの委嘱により作曲し、2017年のヨーロピアン・ブラスバンド選手権（European Brass Band Championships）にて初演された。翌年2018年にはブリティッシュ・オープン・ブラスバンド選手権（British Open Brass Band Championships）の課題曲となる。その後、作曲家自身によって吹奏楽版への編曲もされ、より幅広く認知されるようになった。

2016年3月22日、過激派組織（ISIL）によりベルギーの首都ブリュッセルの空港や鉄道を襲った連続爆破テロが起こり、死者は32名、負傷者は300名超えとなる大規模な被害が出た。この曲は、その犠牲者へ捧げるレクイエムとなっている。4つの情景で楽章は分かれているが、途切れることなく全楽章を通して演奏される。

1.無垢（Innocence） コルネットソロによる無垢の魂のレクイエムから始まり、グロッケンの応答で民謡「月の光に(Au Claire de la Lune)」が奏でられる。ブリティッシュならではの温かい響きが平穏な日々を強調する。

2.冷酷に（In Cold Blood） 「月の光に」を打ち砕くかのようにコルネットとハイハットシンバルで鋭い16部音符が襲う。これを機に続くハイテンポのタンギング、連符はテロリストの銃撃、逃げ惑う人々の悲鳴を表している。

3.追悼 - 我ら蘇らん（In Memoriam-We Shall Rise Again） コルネット2声により再び「月の光に」が遠く奏でられる。続いて各楽器によって叙情的なメロディが折り重なっていき、2楽章では無調だったのに対し長調の前向きな将来を見据えた音楽となる。メロディの裏でコルネット、トロンボーンによるファンファーレが奏でられそれは決意が表れているように見える。

4.新しい日々（A New Days） 3楽章から一変し、再びアップテンポな曲調に戻る。拍子も目まぐるしく変わるリズムの中でバスのランニングベース、ホーンによる超絶技巧の連符、コルネットのジャズ的なソロ等見どころが詰め込まれている。曲の冒頭では「月の光に」が攻撃に晒されて破壊されるが4楽章では復活のモチーフとなる。快速で終盤を迎える為"レクイエム"らしくないと捉えられることもあるが、この曲は全体を通して悲劇に直面した人々の感情、そしてその後の復活を描き希望を見出している。

作品は攻撃そのものを音楽で表したのではなく、なぜ起こってしまったのか、また恐怖に起因する複雑な感情や怒りと悲しみ、それらを克服する決意や情熱の中で徐々に移り変わっていく変化を強調し、そのコントラストが聴く者の心に激しく訴えられる。

コルネット　4年　磯野 沙弥香

Programme Notes

M.アーノルド／パドストウの救命ボート

マルコム・アーノルド(1921-2006)はイギリスの作曲家であり、作曲家としてデビューする前はロンドン・フィルハーモニー管弦楽団の首席トランペット奏者として活躍していた。作曲家としては管弦楽曲や吹奏楽曲の他にも映画音楽も手がけており、「戦場に駆ける橋(1957年公開)」、「6番目の幸福(1958年公開)」などが知られている。「戦場にかける橋」ではアカデミー作曲賞を受賞した。

曲のタイトルにある『パドストウ』とは、イングランドのコーンウォール北海岸にある港町である。1966年、海や沿岸で救命活動をする組織の救命ボートステーションが開設された事を祝うために作曲され、1967年にロンドンのロイヤル・フェスティバル・ホールにて、指揮はアーノルド自身、演奏はブラック・ダイク・バンドによって初演された。アーノルド本人の解説によると、「パドストウの救命ボートの汽笛の音程はミドルCとミドルDの間だが、この曲においてはミドルDの音で統一されている」とのことで、この曲の冒頭をはじめ、至る部分において汽笛のようなミドルDが鳴り響く。灯台の光のような輝かしいフレーズや船が出航する汽笛の音とともにこの曲は始まり、楽しげなメロディーが展開される。その後ゆったりとしたトリオに続くも突然雰囲気が暗くなり、激しいメロディーが展開される。これは船が嵐に巻き込まれたことを表現しており、時折灯台から発せられる信号のような音が奏でられる。汽笛の音が鳴ると、無事に嵐を抜け出せたかのように冒頭のマーチがもう一度展開され、最後は荘厳に閉じられる。

コルネット　1年　吉田 伎良

R.ヴォーン・ウィリアムズ／序曲「ヘンリー五世」

レイフ・ヴォーン・ウィリアムズ(1872-1958)はイングランド南西部グロスタシャーのダウン・アンプニーに生まれた。6歳で叔母からピアノと作曲の手解きを受けるようになり、7歳にはヴァイオリンを始める。14歳になると当時音楽表現を奨励していた数少ない学校の一つであるチャーターハウス校に通った。ケンブリッジ大学のトリニティ・カレッジで歴史学と音楽を専攻し、その後は王立音楽大学にて作曲を学ぶ。在学中にグスターヴ・ホルストと出会い、その後も親友として親交を深める仲となった。卒業後は作曲の他にも指揮、講義、音楽の収集、編集など幅広く活動を行う。1904年、イングランドの各地方に根付いていた民謡が文字の読み書き等で口頭伝承される事が少なくなり急速に失われつつある事に気付き、自ら田舎を訪ね歩き多くの民謡を編曲、保存した。その道のりを歩む中、人々の生活の中で生まれ培われた素朴で純粋な歴史に魅了され、自身の作品にも取り込むようになった。後に彼は英国民族舞踊民謡協会の会長を務めた。協会所有の図書館の名が「ヴォーン・ウィリアムズ記念図書館」としているところから、彼の功績の大きさを伺える。作曲者としては遅咲きで、最初の出版作品は既に30歳になっていた。しかし、今日でも彼の残した作品は多くの人に愛され演奏されている。そして今年は生誕150周年を迎えるのである。

この作品は1933年に作曲された。ヘンリー五世(1387-1422)とは1413-1422年の間、イングランドを統一したランカスター朝のイングランド王である。彼は若い頃から戦いに参加し、父を助けランカスター朝成立期の国内平定に貢献してきた。彼は1413年に即位すると積極的な大陸経営を目指し、1415年に当時フランスの主導権を巡り争っていたブルゴーニュ派とアルマニャック派の内紛に乗じて休戦中であった百年戦争を再開した。同年10月25日のアジャンクールの戦いで大勝し、フランス軍主力を壊滅させた。1420年にはフランス王シャルル六世の娘であるキャサリンと結婚。トロワ条約を締結し自らのフランス王位継承権を認めさせ、ランカスター朝の絶頂期を築いたのである。彼の功績は長年大きな存在であり、後にシェイクスピアの史劇にもなっており、それを元に映画も作られている。今回のヴォーン・ウィリアムズが作曲した序曲「ヘンリー五世」も、彼の底知れぬ行動力と王としての力が題材となっている。

トロンボーン　2年　中田 夏葵

Programme Notes

G.ヴィンター／ジェームズ・クック サーカムナビゲーター

ギルバート・ヴィンター（1909-1969）はイングランド東部のリンカンに生まれた指揮者兼作曲家である。幼少期は少年聖歌隊に所属し、後にファゴット奏者となり活動した。1930年に入団したBBC軍楽バンドで指揮者としての経験を積み、同時に作曲も行うようになった。1952年から1953年にかけてはBBCコンサート・オーケストラの初代首席指揮者を務めている。1960年にブラスバンド・コンテストのスポンサーらがブラスバンド編成の作品を委託したことがきっかけで、ブラスバンドとの関わりを深める。

この曲は18世紀イギリスを生きた航海士ジェームズ・クックをテーマとして書かれた作品である。クックは貧しい家庭に生まれたが、早くから航海術を教え込まれ若くして艦長に上り詰める。三度の世界周航を行っており、オーストラリア大陸やハワイ諸島を発見するなど多くの功績を残したが、三度目の航海は船にとっても乗組員にとっても過酷なもので、修理と休養をとろうと寄港したハワイ諸島で先住民との争いによって命を落とす。冒頭の出航を祝うファンファーレをコルネットが華々しく奏で、広大な海を連想させる豊かで重厚感のあるサウンドに移り変わっていく。クックの成し遂げた偉大さを物語るように、低音から高音まで豊富に使われたダイナミックな楽曲になっているが、航海の厳しさを嘆くような繊細なメロディや、緊張感のある和音と細かいパッセージによって表される突然のアクシデントなど、予測不能な航海のように次々と曲調が移り変わる様子に、好奇心が刺激される作品となっている。

ソプラノコルネット　3年　友野 楓

Programme Notes

J.ウィリアムズ／リバティー ファンファーレ

ジョン・ウィリアムズ（B.1932）はアメリカのニューヨーク州ロングアイランドのフローラ・パークに生まれた。父親はジャズパーカッション奏者として活動していた事もあり、ミュージシャンや映画関係者の子供も在籍するノースハリウッド高校に通うなど、音楽に溢れた生活をしていた。カリフォルニア大学を卒業後に徴兵され空軍の隊員として生活をしていたが、任務の中で指揮や編曲を担当し、入隊中も音楽活動も行っていた。その後、ニューヨークのジュリアード音楽院に進学し、卒業後は作曲家やボストンポップスオーケストラの指揮者、ピアニストなど幅広く活動している。また、世界的に有名な「スター・ウォーズ」や「ジュラシック・パーク」といった多数の映画音楽を手掛けており、映画音楽界の巨匠と呼ばれ、グラミー賞を25回受賞するなど数々の実績を残している。

この曲はリバティー島に位置する自由の女神建設100周年記念のための楽曲で、リバティー・エリス・アイランド財団の委嘱で作曲された。原曲はオーケストラのための作品で、ボストン・ポップス・オーケストラによって初演された。その後、1986年7月4日の式典中、自由の女神の前で披露された。今回演奏するブラスバンド版では、華やかな開会式を想起させるような冒頭のコルネットやトロンボーンの輝かしく壮大なファンファーレと、テナーホーンやバリトンホーンの優雅で美しい旋律の対比が聴きどころである。

バリトンホーン　3年　阿部 紗佳

J.ウィリアムズ／映画「プライベート・ライアン」より『戦没者への讃歌』

映画「プライベート・ライアン」はスティーブン・スピルバーグ監督による1998年に公開された戦争映画。アカデミー賞11部門にノミネート、そのうち5部門を受賞したほど高い評価を受けた作品である。映画の舞台は第二次世界大戦下のフランス北部で行われたノルマンディー上陸作戦。米陸軍参謀総長の元へ、ライアン家の4兄弟のうち3人の戦死報告が届く。末っ子のジェームズ・ライアンは空挺部隊として敵地の奥深くに降下したが行方不明に。そのジェームズを見つけ本国に帰還させるよう、ミラー大尉に命令を下す。実際、第二次世界大戦時に「ソウル・サバイバー・ポリシー」という制度が導入されていた。それは、兵役している家族が戦死をした時に、その家系を絶えさせないよう最後のひとりを帰還させるというものである。ミラー大尉は、苛烈な上陸作戦を終えたばかりのC中隊から7人の兵士を選びライアンを救出に向かうのである。しかし、1人を探し出すために危険を冒し多くの犠牲を払うのはどうなのか？と疑念を持つ者もいた。その葛藤とそれぞれが見出した答えも、【戦争】というものをより考えさせる要素となっている。

スピルバーグがこの映画で目指したのはリアルな戦場を描く事だった。冒頭の20分にわたるオマハビーチでの戦闘シーンは、観た人がその戦場に居るような感覚に陥る映像と音響で、この映画を観た第二次世界大戦を経験した兵士がフラッシュバックを起こすほどであった。

今回演奏する『戦没者への讃歌』は、ノルマンディー上陸作戦から70年後、多くの兵士が眠る墓跡の前にて敬礼をするライアン。星条旗が風にはためく中、エンドロールと共に流れる。2016年、テキサス大学ウィンドアンサンブルのコンサートでこの曲を演奏する際、ジョン・ウィリアムズはプログラムノートに「第二次世界大戦だけではなく、全ての戦争で亡くなった人々を慰めるための曲だと私は思う」と寄稿した。

コルネット　4年　谷口 諒

Programme Notes

J.ウィリアムズ／映画「スター・ウォーズ」より ファントム・メナス組曲

「スター・ウォーズ」は全9エピソードからなるアメリカのスペースオペラ映画。遠い昔、遥か彼方の銀河系にて、フォース（※）という神秘的な力を行使し銀河共和国の平和を維持する騎士団ジェダイと、力で全てを支配しようとする帝国軍との戦いを描いた物語である。（※フォースは全ての生物の中に存在していたが、その能力を扱うことができるのは一部の能力者のみだった。その能力を持つものは未来を予知できたり、触れずに物を動かせたりなどできる。困難に立ち向かう時にフォースがついているから乗り越えられる、という励ましの気持ちを込め「フォースと共にあらんことを」という決まり台詞がある。）

今回演奏するブラスバンド版は、エピソード1「ファントム・メナス」から『運命の闘い（Duel of the Fates）』、『メイン・タイトル（Main Title）』を、エピソード2「クローンの攻撃」から『アクロス・ザ・スターズ －愛のテーマ－（Across The Stars – Love Theme –）』を用いて編曲した。

エピソード1「ファントム・メナス」は、スター・ウォーズシリーズ製作第4作目であり、ジェダイの騎士であるクワイ＝ガン・ジンと騎士見習いオビ＝ワン・ケノービが、生まれつきに強いフォースを持つ少年アナキン・スカイウォーカーと出会う話である。その続きの作品であるエピソード2「クローンの攻撃」ではオビ＝ワンがジェダイの騎士となり、アナキン・スカイウォーカーが騎士見習いとなってから10年が経ったところから物語がはじまる。

各曲について、『運命の闘い（Duel of the Fates）』は、映画本編では胸騒ぎがするような短調の重たい合唱から始まり、心身を焦らせるような速いテンポに変わる。幾度となく繰り返されるフレーズと甲高い合いの手によって焦燥感や緊迫感を与えるこの曲は、ジェダイの騎士達の闘いを大いに盛り上げる。『メイン・タイトル（Main Title）』は、広大な宇宙を想像できるような勇ましい序奏とファンファーレから始まる。この映画を顔と言っても過言ではないほど認知度が格段に高い曲である。『アクロス・ザ・スターズ －愛のテーマ－（Across The Stars – Love Theme –）』は、アナキンの愛に関わる場面で多く使用される。想い人への愛や母への愛。その「愛」の中にある優しさ、悲しさ、強さなどを、ひとつのテーマを元にして様々なアレンジを加えたものが本編にちりばめられている。作中ではエンドロールにて初めてまとまった曲を聴くことができるため、上映後にも楽しむことができるだろう。

「フォースと共にあらんことを」

ソプラノコルネット　4年　細谷 侑生

Conductor

山本 武雄　Takeo Yamamoto

東京藝術大学音楽学部器楽科（トランペット専攻）卒業後、同大学管弦楽研究部のトランペット奏者として務める。1987年～1988年、文部省在外研究員として、英国及びヨーロッパ各国にて“金管合奏法の指導”研究のため渡欧。英国ナショナルブラスバンド協会から功労賞を授与され、英国ブラスバンド協会会員、指導者資格を与えられる。1972年、我が国初のブリティッシュスタイルの金管バンド「東京ブラスソサエティ」を創立し、ブラスバンドの研究と普及、発展に努めている。1998年、日本吹奏楽アカデミー賞を受賞。2019年、英国（ブリティッシュ・バンズマン）より、日本でブラスバンドの文化を発展させた業績により、Herbert Whiteley 賞を受賞。日本管打・吹奏楽学会、日本吹奏楽指導者協会、“21世紀の吹奏楽”実行委員会等において吹奏楽の指導、客演指揮、審査員を務める。日本ブラスバンド指導者協会理事長。2006年より洗足学園音楽大学教授・ブリティッシュブラス・アドバイザー、2012年より名誉教授・吹奏楽特別参与。

福田 昌範　Masanori Fukuda

広島県三原市出身。玉川大学文学部芸術学科音楽専攻並びに同大学専攻科芸術専攻をともに首席で修了（ユーフォニアム）。2003年洗足学園音楽大学附属指揮研究所修了（指揮）。2020年東京学芸大学大学院教育学研究科修了（作曲）。第3回日本管打楽器コンクール入選、第6回同コンクール第3位入賞（ユーフォニアム）。第58回、第60回全日本吹奏楽コンクールにて指揮者賞受賞（指揮）。第27回TIAA全日本作曲家コンクール入賞（審査員賞）、第5回K作曲コンクール第1位、第2回シンガポール国際作曲コンテスト、第31回朝日作曲賞ファイナリスト（作曲）。教育者として、公立中学校、公立高等学校の教諭を経て、現在は、洗足学園音楽大学などで、後進の指導にあたっている。ユーフォニアムを三浦徹、指揮をF.フェネル、汐澤安彦、河地良智、秋山和慶、D.ボストック、作曲を谷本智希、藤田玄播、伊藤康英、山内雅弘、吹奏楽指導を八田泰一、各氏に師事。

洗足学園音楽大学ブリティッシュブラス

1979年に日本国内の音楽大学で初めて結成された。本格的なブリティッシュスタイルの演奏や研究に取り組むため2006年、日本でのブラスバンドのパイオニア、山本武雄氏（現、名誉教授・吹奏楽特別参与）を迎え、2008年8月に英国への演奏旅行を行い、「インターナショナル・ブラスバンド・サマースクール2008」（於：ウェールズ、スウォンジー大学）への参加、「洗足学園音楽大学ブリティッシュ ブラスコンサート in ウェールズ」（於：カーディフ・ランダフ大聖堂）を行い、研鑽を積んだ。また、2013年度にはロバート・チャイルズ、2015年度にニコラス・チャイルズ両博士を客員教授に迎え、更なる進化を目指し、指導教員と学生が一丸となってブリティッシュサウンドを響かせるべく、指導法や作品の研究に取り組んでいる。

Staff

企画運営責任者	福田 昌範
指導教員	海野 匡代　小川 佳津子　原 進　府川 雪野　古田 賢司 班目 加奈　渡邉 功
アカデミックコーディネーター	海野 匡代
助手	土屋 莉帆

洗足学園音楽大学
ブリティッシュブラス
公式ページ

授業風景、コンサート情報は
こちらをチェック

Facebook

Twitter